



豊かな森林を育む社会経済システムの研究

研究の概要

自然循環系に配慮した維持可能な社会の実現を目指して、その基盤となる環境・資源・文化ともに豊かな森林を保全・創造し、未来へと引き継ぐために必要な社会経済システムについて以下のような視点から研究を行っています。

1. 地域森林管理における多様なパートナーシップの形成に関する研究
2. 地域資源を総合的に活用したツーリズムに関する研究

こんな課題解決のために

農林業の営みを通じた森づくりが難しくなった今日においては、農山村地域の自治体や住民、林業関係者だけでなく、下流域で恩恵を受けている都市域の自治体や市民、企業などの幅広い連携によるサポートが問題解決の重要な鍵となっています。しかし、連携の「絵」を書くことはすぐに出来ても、それを実質的に「協働」の軌道に乗せるためには様々な工夫や仕組み、仕掛けが必要です。中でも、地域（住民）の側の主体性や各主体をうまく導くコーディネート力をいかに発揮させるかがポイントとなります。様々な事例に学びつつ、各地域が主体的に取り組んでいけるようなきっかけになる研究ができればと思います。

また、健全で豊かな森林を将来に亘って維持するためには、森づくりの拠点である農山村地域の再生が不可欠です。その土地ならではの自然の恵みを最大限に活用したツーリズムの発展は、地域再生への大きな力になると考えています。現在でも各地域において様々な取り組みがなされていますが、それらをいかに他の地場産業の振興やひとづくり、まちづくりにつなげていくかという総合的なビジョンが重要です。研究を通じて地域の過去を振り返り、現在を客観的に評価することは、地域のビジョンづくりに役立つと思います。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

- ・和歌山県「企業の森」経済波及効果に関する調査研究（2016年度和歌山県受託研究）
2002年から、和歌山県が全国に先駆けて取り組んできた「企業の森」事業について、今後の発展方向を検討するために、事業推進の実態把握と経済波及効果の推計を行い、経済効果と社会的効果の両面から事業効果を検証するとともに、今後の課題を提言しました。

研究者からのメッセージ

地域再生に効く特効薬は持ち合わせていませんが、今後の研究を通じて、地域の皆さんがふるさとの未来を考えるきっかけを得られるように、お手伝いできればと考えています。

研究分野： 森林政策論, 森林経済学, 観光学

研究者の所属部局・職位・氏名： 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・大浦由美

本件に関するお問い合わせ：liaison@ml.wakayama-u.ac.jp